

Title	編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第3号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1960), 6(3): 242-242
Issue Date	1960-03
URL	http://hdl.handle.net/2433/111911
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

編集後記

中部地方会のこと（Ⅲ） 地方会にては区域外からの出題をどうするかも問題になる。筆者は嘗て、地方会にてはその所属会員に出来るだけ多くの発表機会を与え、区域外からの出題はなるべく遠慮するのがよいと書いた事がある。然し現在では考えが多少変つている。地方会である以上は地方会員に重点を置くべきは勿論であるが、区域外からの出題も必ずしも排すべきではない。区域内だけでは学会の内容が低調になる惧れがないでもない。そこへ区域外から自信のある出題が為されて新風を吹き込み活気を与える事は地方会員にとつても倅せである。勿論区域外からの出題数は限定される必要があるが、区域外者による追加討論等は大に行われてよい。今回の出題48に就てみると、部内からの口演30題、誌上8題に対して、部外からは口演9題、誌上1題である。即ち部内の口演8題を止めて、部外に9題を譲つた結果になっており、そのために学会が意義を増したとすれば、その程度の出題数が部外からある事は歓迎すべき事であろう。そこで地方会といえども総会的な性格をかなり加えて来る事になる。これも以上の理由によつて必ずしも排すべきではなく、地方会の新しいあり方と考えられる。

今回の一般演説の出題傾向として目立つた点は、性現象や性ホルモンに関するものが多かつた。これは近年に於ける内分泌学の目覚ましい発展に関連するものと考えられ、泌尿器科学としても重要な方向であろう。

記念撮影のために屋上にあがると、すぐ向うに再建成つた和歌山城がそびえている。まことに見事な景観である。昔の城主は天主閣から城下を見下ろし、絶対の権力を誇つたのであるが、今日はその天主閣上に観光客の姿が見える。即ち封建という殻から開放せられたのである。この事から考えても、日本はやはり時代と共に進歩しているのであろう。然しまた別の面から考えてみると、封建時代の遺物を再現して、民主時代の人間がそれを謳歌しているのは、どういうことになるのであろうか。私は感情と理窟の間に挟まれて暫らくそこに立つていた（昭和35年3月）

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所屬機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。